

INFORMATION

No.2021.38
2022年3月

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。

謹白

記

■ 実施日 2022年3月31日(木) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

■

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
2828	尿中コルチゾール 4D045-0000-004-051	蓄尿 5.0mL	⑳ 滅菌尿用 スピッツ	冷蔵 (21日)	3~7	127 ※5	CLIA	4.3~176 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	酸 非抱合型コルチゾールの測定となります。

※5：生化学的検査(Ⅱ)判断料

■ 今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

検査項目一覧 掲載頁	項目 コード	項目名	受託中止日
83	2339	コルチゾール(尿中)	2022年3月30日(水) ご依頼分をもって受託中止



一般社団法人

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1丁目6番9号 TEL(092)852-1506 FAX(092)852-1511

●尿中コルチゾール

下垂体から分泌されるACTHの刺激を受けて、副腎皮質束状層より分泌される分子量362.5の糖質コルチコイドでACTHとの間にフィードバック関係がある。血中の90%以上が蛋白との結合型として存在し副腎、肝、腎で代謝を受け、グルクロン酸抱合を受けて、尿中に排泄される。血中半減期は、1.4～3時間とされている。副腎皮質機能を知るために行う検査で、原発性

(副腎性)、続発性(視床下部性または下垂体性)を含めた副腎皮質機能不全症や、コルチゾール過剰症であるクッシング症候群の診断の指標として有用である。

▼疾患との関連

クッシング症候群、グルココルチコイド不応症、甲状腺機能亢進症(肥満、妊娠後期)、ACTH単独欠損症、ACTH不応症、Addison病、下垂体機能低下症、原発性副腎皮質機能低下症、先天性副腎皮質過形成、続発性副腎皮質機能低下症、慢性腎不全

▼関連する主な検査項目

3043 副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)

▼検査要項

検査項目名	尿中コルチゾール
項目コード	2828
検体量	蓄尿：5.0mL
容器	⑳ 滅菌尿用スピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	3～7日
検査方法	CLIA
基準値	4.3～176 (μg/day)
報告範囲(単位)	0.0～99900000 (μg/day) (尿量により異なる)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁
検査実施料	127点 (「D008」内分泌学的検査「15」)
判断料	144点(生化学的検査(Ⅱ)判断料)
備考	酸 非抱合型コルチゾールの測定となります。

●参考文献

関口昌江, 他: 医学と薬学 69 (6): 985～991, 2013. (検査方法参考文献)

田中孝司: 日本臨床 53 (増): 437～440, 1995. (臨床的意義参考文献)